

平成29年度 第1回総合教育会議次第

日 時 平成30年2月20日(火)
午後4時から
場 所 本庁舎 401 会議室

1 開会

2 挨拶

3 議題

(1) 射水市英語教育推進事業について・・・・・・・・・・資料1

(2) 射水っ子体力づくり支援事業について・・・・・・・・・・資料2

(3) その他

4 閉会

射水市が目指す英語教育

平成32年度の新学習指導要領全面実施に向けて、小学1年生から中学3年生までの9年間を通して、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能を着実に育成し、英語を運用する力の基礎を養う。小中連携を図った英語教育により、小学生が「英語を学ぶのはおもしろい」「中学生になったら英語をもっと学べるのが楽しみ」と興味関心を持ち、中学生が「小学校の学習と繋がっていてよくわかる」「英語をもっと使えるようになりたい」と学習意欲を高めることを目指す。

◆小学1年生から英語に触れ合い、中学3年生までの9年間を通じた英語教育の充実を図ることで、児童生徒が英語に興味・関心を持ち、学習意欲の向上につなげる。

◆生徒の英語力の検証 ⇒ 中学3年生の「英検3級以上の英語力を有する生徒の割合」60%以上を目標 (H29射水市:57% 国の目標:50% 富山市:33% 高岡市:53% 黒部市:48%)

1 国による英語教育の目標

	現行の学習指導要領	新学習指導要領 (先行実施:H30,31 全面実施:H32～)	目標
小学校 3・4年	○4技能「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の総合的育成 ○目標:コミュニケーション能力の基礎を養う	○活動型 ○学級担任を中心に指導 ○目標:英語を用いて「聞くこと」「話すこと」を中心とする。外国語に慣れ親しませ、学習への動機付けを高める。 先行実施:年間15時間 全面実施:年間35時間	英語でのコミュニケーション
小学校 5・6年	○活動型 ○学級担任を中心に指導 ○目標:コミュニケーション能力の素地を養う 年間35時間	○教科型 ○専科教員の積極的活用 ○目標:「読むこと」や「書くこと」も含めた初歩的な英語の運用能力を養う 先行実施:年間50時間 全面実施:年間70時間	英語を「読む」「書く」の初歩的な運用
中学校	○4技能「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の総合的育成 ○目標:コミュニケーション能力の基礎を養う 年間140時間	○4技能「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の総合的育成 ○目標:身近な事柄を中心に、意思疎通を図ることができる能力を養う 年間140時間	英検2級3級程度

2 これまでの射水市英語教育の取組・成果・課題

(1) これまでの取組

小学校

- ①外国語活動指導員の配置(4名)
- ②教職員研修の開催
- ③イングリッシュ体験学習の実施【H29まで】
- ④「外国語活動マイスター教員」・「外国語活動授業の達人」の授業公開
- ⑤県内大学の留学生との交流活動

中学校

- ①ALTの配置(4名)
- ②教職員研修の開催
- ③デジタル教科書及びタブレットPCの導入
- ④イングリッシュ体験学習の実施【H29まで】
- ⑤「英語科外国語活動マイスター教員」・「英語科授業の達人」の授業公開
- ⑥県内大学の留学生との交流活動

(2) これまでの成果

- ①学習意欲の高まり・学力向上
- ②授業の質の確保
- ③各校の創意ある取組の推進

(3) 課題

- ①小学校における指導体制の拡充・強化
- ②小中学校の学びの接続を図った授業改善・充実
- ③学校の創意ある英語教育の充実・推進

3 今後、射水市が実施する英語教育

【新】低学年から英語教育を充実

	学習指導要領		H29年度	H30年度	H31年度	H32年度～	備 考
			現行	先行実施		全面实施	
小学校 1・2年	体 系		国際理解教育 (学級活動)	外国語教育：ハロー・イングリッシュ（仮称） 活動例：「英語と仲良し」「英語で遊ぼう」			○活動型 ○学級担任を中心に指導 ○目標：英語を用いて「聞くこと」「話すこと」を中心とする。外国語に慣れ親しませ、学習への動機付けを高める。
	授業時間		年間3時間	年間5時間（学校裁量の時間を活用）			
	配置時間	外国語活動指導員		年間5時間	学級担任が指導		
小学校 3・4年	体 系		国際理解教育 (学級活動)	外国語活動		外国語活動	○教科型 ○専科教員の積極的活用 ○目標：「読むこと」や「書くこと」も含めた初歩的な英語運用能力を養う。
	授業時間		年間10時間	年間15時間		年間35時間	
	配置時間	外国語活動指導員		年間15時間		年間35時間	
小学校 5・6年	体 系		外国語活動	外国語科(英語科)		外国語科(英語科)	○4技能の総合的育成 ○目標：身近な事柄を中心に、意思疎通を図ることがで きる能力を養う。
	授業時間		年間35時間	年間50時間		年間70時間	
	配置時間	外国語指導助手(ALT)		年間35時間		年間35時間	
		外国語活動指導員	年間35時間	年間15時間			
中学校	体 系		【新】小学校高学年に 外国語指導助手(ALT)を4名配置		外国語科（英語科）		
	授業時間				年間140時間		
	配置時間	外国語指導助手(ALT)			年間35時間		

【新】教員の指導力・英語力向上のため、小学校全学級担任を対象に、大学の教官を講師に招き研修会を実施

「聞く」「話す」「読む」「書く」4技能の育成

4 英語教育の推進体制

(1) 小学校英語教育に関する調査研究委員会での取組

- ①移行期間の指導計画や指導内容の検討・見直し ②英語指導ガイドプレートの作成 ③小学校低学年の教材の作成 ④実践的研修会の企画・運営

(2) 射水市授業力向上研修会(小中合同研修会)での取組

- ①小中学びの接続に関わる研究 ②中学校区ごとの小中授業交流の実施

射水っ子体力づくり支援事業

資料 2

事業趣旨

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げの8種目を毎年測定

平成28年度、平成29年度の体力・運動能力調査において、本市児童は、ほとんどの学年で県平均を下回っている。特に、「上体起こし」の(腹)筋力、「20mシャトルラン」の持久力、「50m走」の走力の3種目において顕著である。また、本市生徒は「20mシャトルラン」「持久走」において、全ての学年で、全国平均、県平均を下回っており危機的な状況である。

本市の教育理念である「たくましい人材の育成」の要素に体力等は、関係づくものであり、今後、児童が運動に親しみ、体力向上を図るため、平成30年度以降は、以下の対策を講じたい。

幼児（保育所・幼稚園）

専門的指導者の派遣「からだ育て教室」

- ・公立及び、私立幼稚園、保育園、認定こども園(30園)に、地域の指導者が来訪し、幼児の指導を通した指導方法の研修を行う。 約2回/園×30園
- ・大学教授等を講師とした、幼稚園教諭及び保育士対象の運動遊び指導力向上講習会を行う。

射水ちびっこ体づくり連携モデル事業

- ・市内の幼児教育学科を設置する富山福祉短期大学と連携・協力体制を築き、そこで学ぶ優れた学生を「運動遊びのアシスト」として市立幼稚園1園に派遣し、幼児の体力向上に向けた、幼児教育の支援充実を目指す。幼児期からの運動遊びを推進し、市内の子供の体力増進を図る。年間12回(月1回)

児童（小学校）

専門的指導者の体育科授業への派遣

- ・小学校体育科の授業「体づくり運動」「陸上競技(走・跳の運動(遊び))」に地域等の専門的指導者を派遣し、児童に直接、走り方の技術指導や体力を高める運動の指導、運動に対する興味・関心を高める支援を行う。

年間50H(学校体育活動サポート事業(県1/3)を活用)

3カ年計画 年間5校を事業対象校とする

教員等の指導力向上研修

- ・小学校教員向けの実技指導者研修や講習を実施し、講師を派遣し指導力向上を目指す。小教研、体力向上委員会、希望教員単位での「走り方指導研修会(仮称)」と校内研修を主とする。(年2回が上限)

生徒（中学校）

外部指導者の活用

- ・部活動エキスパート事業を継続し、専門的な知識と指導技術を有する指導者「スポーツエキスパート」を派遣する。

年間24回(36人)

- ・部活動の指導や引率を単独でできる「部活動指導員」を新規に配置し、教員の負担軽減を図るとともに、部活動の質の向上を図る。年間4人
(部活動指導員配置促進事業(国1/3、県1/3)を活用)

専門的指導者の保健体育科授業への派遣

- ・中学校においても、学校体育活動サポート事業を活用し、専門的指導者を派遣し、生徒の体力向上や教員の指導力向上を図る。年間20H

期待する成果

平成30年度から、各年度毎に実績評価を行い取組の充実を図りながら3年間実践する。33年度の調査において、重点的に取組んだ種目がすべての学校で県平均を上回るようにする。